（様式２）

学　校　関　係　者　評　価　報　告　書

愛媛県立宇和島東高等学校　全日制・定時制
学校番号（　４０　）

評価実施日		令和５年２月１５日（水）	
	氏　　名	所　　属　　等	備　考
委員	紀井　尚之	学校評議員、伊予銀行　宇和島支店長	
	一色　敏徳	学校評議員、愛媛新聞社　南予支社長	
	高田　哲也	株式会社　高田商店　代表取締役	
	森藤　博明	学校評議員、愛媛県退職公務員連盟宇和島・鬼北地区副支部長	
	田中　繁幸	ジブラルタ生命保険株式会社　営業次長	
	宮本　洋二	宇和島市立城南中学校長	
	山下　　太	ＰＴＡ会長	
	芳谷　圭一	教育振興会長	

評　価　・　提　言　等	提言等に対する改善方策等
１　今年度の最終評価について	１　今年度の最終評価について
(1)　生徒の自己実現	(1)　生徒の自己実現
ア　生徒の評価からも授業改善が推進されていることがわかる。研修に教職員が意欲的に取り組んでいることが生徒の自己実現にも好影響をもたらしていると思われる。マニフェストに示される力を育成するための取組を今後も期待している。	ア　今年度は、教科横断型等授業を積極的に導入することで、授業改善の質がさらに向上したと思われる。教科を超えたチームで授業を計画・実施することで、授業の内容がより学際的なものになり、言語活動の必然性がさらに高くなり、結果として、新学習指導要領の示す令和型の日本の教育が、本校で充実してきた。同時に、授業内の生徒の活動もより活発になった。 生徒の主体性をさらに引き出し、その成果をより正確に評価できるよう、ＩＣＴの活用も含めて、教科を超えて情報が共有できる全校体制のチームづくりを図りたい。
イ　文武両道を目指す中、家庭学習については時間の増加がポイントとなっているが、時間数なのか短時間で質を上げるのか生徒の健康面にも配慮が必要ではないかと考える。生徒自身は、向上心を持って入学していると思うが、その気持ちを継続し、新たなことへ挑戦できる生徒を今後も育ててほしい。	イ　教員間の連携により、以前のように複数教科で同時に多くの課題を指示する流れはなくなっている。今年度３年生の学習成績が良かった理由の一つに、入学当初より「主体的に学ぶ方法」を身に付けさせてきたことが挙げられる。土曜補習をなくし、長期休業中の補習も大幅に減らしている中、ＩＣＴ機器を用いて、家庭で主体的・効率的に学ぶ方法を教員側もさらに模索していく。 また、HR担任との面接週間を設定しているが、向上心を持っている生徒へ刺激を与えるため担任以外との面接も頻繁に実施していきたい。
ウ　ＩＣＴや生徒の一人一台端末の活用を進めているようであるが、活用のあり方や情報リテラシーは生徒によって差があると考えられる。平準化や活用の方法について今後も研究を進めてほしい。	ウ　オンラインツールの活用で、授業での意見集約やファイルの共同編集などを行い連携を図っている。また、オンライン授業やオンライン会議をすることで、本校だけではなく、他校の生徒との交流にも活用している。出欠連絡や緊急連絡についても電話連絡からオンラインアプリを使用するようになり、負担の軽減につながっている。生徒のＩＣＴスキルやＩＣＴリテラシーについては、授業の他に SHRや集会を用いて正しい知識を身に着けさせ、ＩＣＴ機器を正しく使えるように改善していきたい。
エ　ＳＳＨの取組を含め理数教育に注力していることは大変素晴らしい。近年、金融系企業の採用においても理数系の人材採用が増えており、理数教育の充実は好感がもてる。	エ　理数教育を進めることで、論理的・科学的思考力を高めるとともに、アウトプットの手法を身に付けたり、データ活用力を高めていけると考えている。今後は、その「質」にこだわり一段高いレベルを見据えた取組を継続し、目標とする科学技術人材の育成に向け、課題研究や大学・企業との連携等諸活動等の充実を図りたい。

評　価　・　提　言　等	提言等に対する改善方策等
(2)　心身健康で豊かな心 ア　女子生徒のスラックス採用や校則改定にも取り組んでいる様子が伺える。高校生活がよりよいものとなるよう生徒と共に検討を進めてほしい。	(2)　心身健康で豊かな心 ア　女子のスラックスについては、生徒会やＰＴＡ役員の方々の意見も取り入れながら採用することができた。校則については、生徒が健全な学校生活を送りよりよく成長・発達していく上で適切なものとなるよう見直していきたい。その際に教職員だけでなく生徒の意見が反映できるよう生徒会とも連携して検討を進めていきたい。
イ　人権・同和教育ホームルーム活動の公開授業を参観し、大変活発に活動が展開されていることに感心した。今後も全ての教育活動が人権・同和教育の視点に立ったものとなることを願っている。	イ　人権・同和教育ホームルーム活動や生活のあらゆる場面で、生徒が様々な人権問題を自分事として捉え、より主体的に取り組むことができるよう教職員や生徒の研修を充実させていきたい。
ウ　長期欠席や不登校傾向の生徒がいる場合は、どのように寄り添い、克服しているのか対応策等を明記することも必要ではないかと考える。	ウ　該当生徒については、関係者によるケース会議の実施や外部関係機関と連携をとりながら生徒・保護者へ寄り添うことのできる支援体制づくりに心がけている。また、本校にはスクールライフアドバイザーが配置されており、生徒のみならず保護者、教職員の心の健康についても常に助言をいただいている。 今後も多様な生徒が在籍することが考えられるため、関係者による情報共有を行い誰もが安心できる支援体制づくりに努めていきたい。
(3)　魅力ある特別活動 コロナ禍ではあるが、生徒主体の活動は盛り上がり非常によいものになっていると思われる。特別活動や学校行事の充実は活力や潤いをもたらす大きな要素でもあり、愛校心を育むことにもつながる。分校との交流も進んでおり、今後も無理のない工夫を考えていただけるとありがたい。	(3)　魅力ある特別活動 学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動は生徒と保護者、教職員や地域にとって学校を感じる一番の取組だと考えている。コロナ前の取組に戻したい内容とコロナ後の新たな取組の成果を検証し、再構築することで、よりよい特別活動を目指したい。次年度も「愛校心を育む」をテーマに生徒が主体的に関わる取組を増やした企画や運営をしていきたい。
2　定時制について 少人数や様々な年齢構成ながら学習活動や特別活動によく取り組んでおり、その成果は先生方の生徒に寄り添った指導の表れだと思われる。臨機応変な対応もあるかと思うが、今後も生徒の学校生活がより活性化することを期待している。	2　定時制について 学習活動においては、各教科とも分かる授業・考える力が身に付く授業を実践し、基礎学力の定着やバランスのとれた学力の伸長に努めている。また、学校行事等の特別活動においては、他者との触れ合いを大切にした活動や、思いやりの心や豊かな人間性を育む活動を重視している。今後の方策としては、重点努力目標にあるように、生徒も教員も日々挑戦する気持ちを持って学校生活を送るとともに、様々な背景を持った生徒が自らの人生を切り拓いていけるよう一人一人に寄り添った支援を継続して行っていきたい。また、今回Ｂ評価以下の項目については、具体的目標が達成できなかった要因を分析し、改善することで生徒のよりよい育成につなげていきたい。
3　学校運営について 校長が自らの教育理念や学校運営についての考えを明らかにしてマニフェストを目指した学校経営がなされており、教職員が一丸となって目標の達成に向けて努力していることが伺える。笑顔で頑張る気持ちを持ち続け、常に活気のある学校であってほしい。先生方には健康面に留意されてこれからも生徒のための尽力をお願いしたい。	3　学校運営について 南予地域の中核校として地域や生徒・保護者の期待に応えるべく学校運営を行う。そのためには、地域の方々の声や学校評価委員会でいただいた意見をしっかり受け止めて学校運営に活かしていきたい。生徒すべてが生き生きと学校生活を送り、知・徳・体の向上を実現できる活気のある学校作りを目指したい。また、教職員の健康には十分に留意して助け合い、充実感を持って仕事に取り組むことができる職場環境を整えたい。